

首都圏段戸会会報

平成25年4月
第31号

発行責任者
首都圏段戸会
会長 野村親信

編集発行人
広報担当 磯尾進

平成24年度総会・懇親会報告

高34回 井上由美子

『ただ今から、第40回首都圏段戸会総会を始めさせていただきます』

10月27日(土)初めて司会を担当した大山なつみさん(高62回)のその可愛らしい声が、会場いっぱいに響き渡りました。参加者最年長は高校2回、最年少は高校64回。その年齢差62歳という幅広い年代の方々が集ったアルカディア市ヶ谷には、来賓2名、招聘恩師4名、会員248名、合計254名の笑顔が溢れました。

今回の総会では2年に1度の4役改選が行われ、新たに野村親信会長(高16回)村木央明副会長(高19回)織田利彦



永田会長挨拶

事務局長(高26回)板谷敏正副事務局長(高34回)が選出され、留任の水谷鏡子副会長(高14回)天野隆太郎副事務局長(高20回)上田洋子副事務局長(高22回)と共に承認されました。

永田宏前会長からは、一昨年台風、昨年は震災後の外出控えが心配されたことなど、在任期間を総括した退任のご挨拶がありました。

岡崎からお越し頂いた古澤武雄同窓会長からは、3年後となった120周年に向けて準備が始まっていること。村上慎一教頭先生からは、国際交流のご紹介がありました。



古澤武雄同窓会長(高14回)



村上慎一教頭先生



金谷鎬二先生



岡田保則先生



祖父江義信先生



木村好夫先生

招聘恩師は金谷鎬二先生(英語)祖父江義信先生(数学)岡田保則先生(数学)木村好夫先生(社会)の4名。在任中の懐かしいお話や近況を交えたご挨拶を頂きました。

続いて行われた講演会、今回は『はやぶさ』の惑星間往復飛行と小惑星イトカワの微粒子』と題して、宇宙航空研究開発機構(JAXA)名誉教授の藤村彰夫氏(高18回)にご講演頂きました。物質の小片から太陽系の歴史を読む壮大なプロジェクトにロマンを感じたのか会場は超満員。第30回からスタートしたこの講演会もすっかり定着し、参加者の楽し

みのひとつとなっています。

続く懇親会では、段戸音楽会のメンバーが水戸黄門のテーマ、ああ人生に涙ありの生演奏で皆様をお迎え。「お元気でしたか?」「また今年も会えましたね」といった会話があちらこちらから聞こえたり「初めまして」「中学校が同じです」といった新しい出逢いがあったり。この会は単に懐かしい再会だけでなく「岡崎高校」をキーワードに付加価値を持った会へと成長しているのではないのでしょうか。段戸華教室の作品はさりげないおもてなしの心を表現。カクキューさんのご協力でDanisoメンバーが振舞った温かい豆茶も好評。

締め括りとして声高らかに校歌を歌い、この言葉で幕を閉じました。



講演会 藤村彰夫さん



古希と首都圏段戸会

高13回 中 浩之



古希を迎えられた皆さん 前列右から2人目 中さん

第40回首都圏段戸会総会に古希を迎えた我々高13回生は会費免除で招待されました。ありがとうございます。一同心からお礼申し上げます。

我同期生は段戸会に対する意識や団結力がもともと強く、この総会においても世話人の呼びかけに21名の大勢が集まってくれました。自慢すべきことが二つあります。一つは、総会出席者数に占める同期生の出席者数の割合がトップ、二つ目が会報30号裏表紙の「平成23年度運営協力金寄付者」の人数がトップであります。まさに首都圏段戸会の中枢をなす世

代と言えましょう。

以前の会報にも書きましたが、学生時代に台風で流れた「修学旅行」を50年後に復活したり、還暦、古希の祝賀会を岡崎で盛大に開催したりしています。同期生はそれぞれにゴルフ、俳句、囲碁、鎌倉散策などの数名のグループを作って、横の親交を温めていますし、総会に出席して先輩、後輩との会話を楽しみ、縦の繋がりを深めています。

現在でも現役として仕事を続けている人もいますが、多くの人は毎日サンデーです。そんな生活の中にあつて、段戸会を介しての縦、横の繋がりは大きな刺激材であります。

社会的動物とされる人間にとってコミュニケーションはとても大事なことです。昨今急激に発展・拡大している機械的な接触であるネットによるのではなく、段戸会を通してのフェイスツーフェイスの繋がりであるコミュニケーションこそが重要なのではないのでしょうか？

最近、娘から大学では、研究室の入出時に「おはようございます」「お先に失礼します」

を口頭では言わずに携帯メールでいう学生がいます、と聞かされ大変ショックを受けました。



金谷先生と21回生

総会出席者の一言

高18回 音部 昌宏



音部昌宏さん 佐口正司さん 伊藤博邦さん 山内 恵さん

惑星イトカワから回収した微粒子の事などお話いただきました。「はやぶさ」が地球からの指示で故障回復できたのか不思議でしたが想定されるあらゆる故障についてシミュレーションを行い事前に対策プログラムを準備していた事をお聞きし日本の科学技術レベルに感動しました関係者が膨大なエネルギーを費やした大プロジェクトで

今年、総会のハイライトは有名になった「はやぶさ」プロジェクトのメンバード宇宙航空研究開発機構名誉教授の藤村彰夫さん(18回)の講演でした。「はやぶさ」が無事帰還した事や小惑星イトカワから回収した微粒子の事などお話いただきました。「はやぶさ」が地球からの指示で故障回復できたのか不思議でしたが想定されるあらゆる故障についてシミュレーションを行い事前に対策プログラムを準備していた事をお聞きし日本の科学技術レベルに感動しました関係者が膨大なエネルギーを費やした大プロジェクトで

あったことが実感できました。またイトカワから採取した微粒子の分析をする事で宇宙の起源を探るという壮大なテーマへの挑戦を知ることができました。講師の藤村さんはこれらの難しい話を非常にわかり易く説明いただきました。岡高OBの素晴らしい活躍を知ることができ嬉しくなった一日でした。

高25回 戸田 譲三



樋江井和徳さん 戸田譲三さん

よっぽどの仕事がない限り、毎年この総会には出席をしております。今年も、同期の樋江井さんと会えて昔話に

花が咲き、その後の二次会も、高26回の人達に合流して楽しい時間を過ごすことが出来ました。高26回の皆さん、ありがとうございます。

何度も総会に出席していますと、面白いことがたくさんあります。私の場合には、名古屋で行われた高23回生の同期会が先輩が私の姉と会い、大変驚かれた様子でした。樋江井さんの場合には、地元の幸田の先輩と偶然に知り合いとなり、地元話と仕事の話を熱心にされています。もうひとつ面白く感じるのは、各期に

おいて岡高への思い入れに温度差があることです。高23回の私の姉の場合には、高校時代にはあまり良い思い出が無いらしく、体育の先生の叱られた印象しか残っていないようです。

私たちが高25回生は、うるさいのはアパッチしか居なかったので高校生活は結構楽しいものでした。

この総会は、過去は思い出であり、今は今であることを実感出来るものなので、来年はもっと多くの方に来て頂きたいです。



青木良子さん 祖父江義信先生 野村 明さん 松田かおりさん 阿部由美子さん

高33回 松田 かおり

に声をかけて下さいましたが、世代を超えても共通の話題があり、岡高の同窓生という強いつながりを感じました。翌年は青木さんが参加して三人、昨年

三年前に三年時の担任平野先生が来られると聞き、友人の阿部さんと二人で参加したのが最初でした。世話人の高20回天野さんをはじめ先輩方が、二人でポツンとしていた私達

私は参加できませんでしたが、今年は四人が参加、少しずつ高33回の輪が広がっているのを感じています。

介護の仕事をしている私は、人生の最期の時期に関わる事が多く、家族や友人との関係が良い人は、幸せな最期を送られるように感じています。

段戸会の元気な先輩方を見習い、これから友人の輪、同窓生の輪を広げること、後半の人生を有意義に過ごしませんか。



松田晴光さん 松尾直樹さん

高44回 松田 晴光

首都圏段戸会総会で、懐かしい同級生、恩師先輩、後輩に会えて楽しかったですね。おいしい料理を食べながら楽しいこと

ばかりです。それはみんながみんな思っていることでしょう。一方で仕事や家庭の都合で来られない方々も大勢います。出席者の間で、来られなかった人たちのことを思い、話題に出たりして話はずさんだりします。出席者同士で名刺交換もしますが、話題に出たが来られなかった人の連絡先を個人情報取り扱いに注意しながら教えてもらったりもします。実際に私は音信不通だった級友の連絡先を

出席者から聞いて連絡を取ってみて、ありがたい返事をいただきました。総会に出席しなくても繋がっているのです。すごいですね、同窓会。

高64回 細井 美裕

今回、首都圏段戸会総会・懇親会に初めて参加させていただきます。



松田佳佳さん(高61回) 細井美裕さん 栗津文香さん(高62回)

くで、終わる頃にはすっかり緊張もほぐれていました。会場では様々な分野で活躍なさっている先輩方に出会えるだけでなく、大学での研究や経済の話などとても貴重なお話もしていただきました。

またJAXA名誉教授の藤村さんの講演会では普段聞けないようなお話も拝聴でき、会場に足を運べたことを大変嬉しく思います。

総会に出席してみても、改めて岡高のすばらしさを認識することができました。これからも段戸会を通して、岡高というつながりを大切にしていきたく思います。時間でした。

三代参加の深津ファミリー 泰宏さん(17回) 智子さん(48回) 純子さん(20回) 広孝さん(48回)



7回生と16回生



木村先生と



今年も声高らかに歌いました。

特集

人生お楽しみ中！

音響誘導システムの開発

高7回 近藤 衛



目の見えない人が街の中を自由に歩けるように小鳥が道案内するもの

を作りたいと思います、音響誘導システムを考案しました。目の見える人にも、小鳥の鳴声について行くと遊園地のコースを一周できるようなものです。クリスマスツリーの電光飾りでは、電線上に並んだLEDライトが次々に光って移動するのを見たことがあるでしょう。ライトの代わりに、スピーカーで小鳥の声を発すれば案内ができるシステムとなります。交差点で、通行可能のとき、鳩がポッポと鳴いている信号機がありますが、あのよう誰にも聞こえるものです。ただ、鳩の声のスピーカーが、あたかも固定でなくて、自動車に載せて進むように、鳩がゆつくり飛ぶように進みます。(実際は約1メートルごとに飛び飛びの位置の固定スピーカーが順に鳴ります。)鳩は4メートル間隔の行列で飛ぶので、街頭宣伝車と違って小さい音で、人のすぐそば(3m以内)を通ります。鳥の声の代わりに歌

を流してもよい。

うまく行ったらこのような線を町中に張り巡らしたいと思っています。私はすでに引退して、孫の世話の片手間にシステム開発をしているので、試作テストが予定より遅れてなかなか進みません。このシステムを考えたきっかけは、目の見えない人が鉄道線路のプラットホームから落ちる事故が何件も報道されて、プラットホームに音響誘導の線を張れば、小鳥の列が通る線を越えると危険だとわかると思いました。酔っ払いや自殺の転落を防ぐことはできませんが、低いコストで設置できます。

システムを円滑に普及するために、特許出願を行い、昨年、特開2012・169977として公開、10月19日に特許登録となりました。これに似た考えの特許出願は、以前からあったのですが、単数の案内音声で、実用にならず、小鳥の列が案内するようなものはありませんでした。弁理士に依頼する費用を節約して、すべて自分で手続きをする手作りシステムです。希望者には実施許諾をする予定です。

小鳥の鳴き声の信号は、マイクROSDカードに録音した何種類もの音声をICチップで発生させ、これをスピーカーに分配するのも、ICの電子工作とプログラミングで手作り中です。

片手間のような段階を脱出して、早く実用品として供給したいと思い、今後、試作機を都内に設置して公开发表する予定です。このシステムを設置するNPOを設立する案、開発提案などがありましたら、次記にメール下さい。

(Email: manokondo@nifty.com)

苦楽同舟

高9回 岡田 敏夫

人生お楽しみ中！とはまさに今の私の人生だ、そう思っている原稿をお引き受けした、1年前でしたが人生はままならぬものです。元氣だった妻が突然「自律神経失調症」というわけのわからぬ病に取り付かれてしまいました。

これまでは、妻は家での生活を楽し、私は旅に出て、スケッチや囲碁交流、人間交流を楽しみ、まさに充実したシニアライフだと自負し、それを紹介しようと思っていたのです。

これまでの約40年に亘るサラリーマン人生が終え、2001年、JICAのSV(シニアボランティア)に応募しました。配属先はタイ山岳民族福祉局、本部は北タイのチェンマイという古都でした。2年間の任期は瞬くうちに過ぎてしまいました。が、(紙面の都合で詳しい話はホームページでご参照ください)生涯で忘れられないような素晴らしい経験をさせてもらいました。任期終了の頃には私はタイの魅力にすっかりとりつかれ、その後は毎年冬の間は北タイで滞在するパターンが続きました。

2007年は日タイ修好120周年で、記念行事実行委員会のメンバーになった時は囲碁の親善試合を提案しました。

実はその頃毎年夏の2週間、ヨーロッパ囲碁コンGRESSに参加するようになり、多くの同好者やプロ棋士先生たちと親しくなっていました。そこで日タイ囲碁親善の話をする「チェンマイ?いいね、

行きましょう」と、とんとん拍子で話が進み、修交記念親善試合は300人を超える参加者で賑わい盛会裏に終了し、今日まで継続しています。

ヨーロッパ囲碁コンGRESSで常連になって以来、各国の選手たちと顔見知りになり、特に隣の国韓国の人々とはいろいろな縁ができた韓国の大会に招待されるようになりました。

2011年11月、韓国のシニア大会を終えて、気分よく帰国したとき、家では妻がパニック状態になって苦しんでいたことを知ったのです。

このため私は一切の旅行と外出を取りやめ、生活の大半を妻のそばで過ごす介護生活に切り替えることになりました。精神不安と時として起こるパニック障害に苦しむことのないよう、できるだけそばにいたり、食事の支度ができなくなってしまう妻に代わって私が台所に立ち立ちりして、大分腕も上がりました。毎日多量に飲む薬の副作用で苦しむことがあり、副作用のない漢方薬への転換はできぬものかと試していますが、そう簡単なものではなさそうです。

結婚して44年間、二人にとってこれほど濃密な時間を共有したことはありませんでした。

「私の病気が治ったら、今度は猫よりあなた優先で、どこへでも一緒に歩いていきます」

そう云う妻を見ていると、私もやっと普通の亭主になれるのかな、と思ったりもします。そして、こうして妻と二人共に頑張っているのも、人生お楽しみ中だといえるかもしれません。

なぜこの仕事を？ — 教育・研究の巻

受験勉強だけでは得られない大切なこと

高34回 青山 和浩



大学での職は大きくは三種類に分けられる。学生への教育活動、研

究活動、そして学協会をはじめとした社会的活動である。「なぜ、この仕事を？」の問いに対して明確に回答することは苦しい。教育に興味があった訳でも無く、研究者に憧れた訳でも無い。ましてや社会活動が好きで無い。強いて言えば「曖昧な問題に真摯に取り組み、解決する活動が評価される職業」というところは価値観を持っている。教育も研究も社会活動も全て曖昧な問題の集積である。

私の専門領域はシステム工学の研究教育領域に分類される。具体的内容としては自動車や家電製品などの工業製品や、ビジネスプロセスや各種サービスの設計、生産活動を対象としたシステムアプローチに関する教育と研究を基盤にしている。経営コンサルタントや技術コンサルタントと明確に区別が付かないと指摘を頂くことも多い。大学らしくない不思議な領域であるが、企業活動、社会活動に深く関係する領域であり、産学連携の研究活動の成果が実社会へ還元され、多くの優秀な学生を世の中に輩出するといった研究教育者としての充実感がある。

以上を「なぜ、この仕事を？」の問いに対する回答とすることもできる。しかし、折角の機会でもあるので、(自分もそうだったが)将来の人生について少なからずの不安を抱いて居る岡高生に対して、なんらかのメッセージを送ろうと思う。

自分が高校生の時は、将来の職業に関しては具体的なイメージは持っていなかった。大学受験のために漠然と勉強していた。魅力的で無い中途半端な高校生活に陥ってしまう日々を過ごしていた。このような状況の中で、ラグビーを一生懸命頑張ったことは救いであった。漠然とした高校生活を過ごす中でも明確な目標を持って日々行動できたことは非常に貴重な経験で有り、自分の生き方(スタイルと価値観)の軸を形成する上で極めて重要であった。大学に入ってもラグビーを継続し、自分を研鑽し成長することの大変さと喜びを体験したことは貴重である。運動することだけが目的では無く、常に問題を設定し、分析し、解決方法を試行錯誤し、仲間と協力して問題を解決していくという基本的なスキルの修得と喜びは今の職における様々な活動においても役に立っており、結果的には曖昧な問題に取り組みことを楽しんでいる。昨年、伝統あるラグビー部が休部になってしまった。OBとしては悲しい事件である。それ以上に、受験勉強だけでは決して身につけられない貴重かつ濃厚な経験をさせる機会の一つが失われてしまったことは非常に残念なことである。

略歴・東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。1989年三菱重工工業株式会社入社、1995年東京大学専任講師、2007年東京大学教授、現在に至る。高校、大学ではラグビー部に所属し、東京大学運動会ラグビー部長、博士(工学)。

獣医師としての細菌学研究

高44回 高松 大輔



現在、独立行政法人農研機構動物衛生研究所において獣医師として

家畜や人に病気を起こす病原細菌の研究を行っています。特に、豚と人に深刻な感染症を引き起こす豚レンサ球菌とミツバチの幼虫に大きな被害をもたらす腐蝕病菌を対象に、発病メカニズムの解明、診断法や予防法の開発などを行っています。肉眼では見えないが、確実に私たちがのまわりに存在する微生物の世界はとて面白く、彼らの生存戦略や驚くべき能力に日々感心させられています。

一口に獣医師といっても様々な仕事があり、獣医学部卒業後は様々な道がありました。ペットの獣医さんになる道、牛豚馬など大動物の臨床獣医になる道、公務員として家畜衛生や公衆衛生に携わる道、動物園の獣医を目指す道、製薬会社など一般企業に就職する道。今では天職と思える細菌学の研究ですが、多様な選択肢の中で何故研究の道を選ぶことになったのかと問われると、「気がついたら自然にそこにいた」という表現が一番ぴったりきます。もともと動物が好きで獣医師の道を目指したのですが、いつの間にか微生物に興味を持ち、ごく自然に

微生物や感染症の研究を仕事にしたいと考えるようになっていました。しかし、経済的な事情もあって大学院進学は諦め、卒業後すぐに農林水産省に入省しました。面接時に研究職希望と伝えたものの自分では配属先を決められませんので、結果的に希望した細菌学の分野で研究を続けられていることは、当時の人事担当者や現在に至るまでの上司や同僚のおかげであると感謝しています。

研究をスタートする時、もちろん社会的なニーズから研究テーマを与えられることもありますが、多くの場合は自分の発想でテーマを決めることとなります。仕事内容の自由度が高い分、何をしたらよいか迷い、流行の研究を追ってしまいがちになることもあります。しかし、流行っている時点で既に時代遅れだと考え、まだあまり注目されていない、または誰も注目していない微生物や現象を研究対象に選ぶように心がけています。そのような研究対象の中から、人間が想像もしていなかった微生物の能力を見つけ、それを利用して社会に役立つものを産み出すことを目標に仕事をしています。

現在は、岐阜大学大学院連合獣医学研究科の客員教員として、大学院教育にも参加するようになりました。研究職を希望しても必ずしもポジションがあるわけではありませんが、大学院教育を通じて、研究という仕事の面白さを少しでも多くの学生さんに知ってもらいたいと思っています。

同期の仲間

「岡崎高校23回生還暦を祝う会」開催

高23回 野々山 浩

平成24（2012）年6月3日（日）名鉄グランドホテルで、「岡崎高校23回生還暦を祝う会」が135名の参加により、盛大に開催されました。

全体写真撮影後、天白君の開会挨拶、代表幹事神谷君の挨拶により開宴となりました。間瀬（稲津）先生、仲井先生、若山（前田）先生、植田先生、4名の恩師に花束・記念品をお渡しし、クラスごとに写真撮影を行いました。

岡高卒業は昭和46（1971）年3月。その後初めて再会する仲間、年下にみられる仲間、年上にみられる仲間、ほとんど変わっていない仲間（？）等、当時の容姿と今の容姿とを比べて、お互いに楽しんでいました。そして、菅沼君（4組、岡崎在住のジャズミュージシャン、もちろん同期）のピアノ伴奏により、「あの頃の流行歌」を歌いました。

会の後半では、「今42年の時を超えて、18歳の時がよみがえる。そう、あの頃の甘酸っぱい青春の思い出が」と、卒業アルバム（横井君作成）がスクリーンに投影され、懐かしさが一層込み上げてきました。ラストで、「みんな、見てくれてありがとう。4年後にまた会いましょう。それまで元気でね」と写し出されると、歓声が一斉に上がりました。

米津君の指揮、中村さんの伴奏で校歌を斉唱し、清水君の挨拶で、お開きとなりました。今回参加できなかったみんなも、4年後に会えることを楽しみにしています。幹事の仲間、特に引き続き幹事を引き受けてくれた8組の仲間、参加してくれた仲間、本当にありがとう。



クラス代表幹事 1組：赤谷元男、2組：小林一巳、3組：川嶋美鈴、4組：石川守彦、5組：米津真、6組：横井英樹、7組：滝村佳石、8組：天白正孝、9組：岡田光司

オープンキャンパス

高60回 杉浦 綾香・篠原 国智

セミの鳴き声が響く中、東大赤門前に懐かしい岡崎高校の制服姿が並んだ。首都圏段戸会主催のオープンキャンパスもこれで5回目。この行事は岡崎高校でも正式行事として認識していただき、夏休みに行く課外学習の選択肢の1つとなっているのだそう。今回は岡高生19名が参加し、引率として稲垣貴也先生と田中宏明先生が来てくださった。卒業生として後輩たちを迎えたのは6名。すでに大学を卒業し就職・大学院進学した人もいて、高校生を前に年を取った気分。はるか昔の受験の記憶を掘り起こしてアドバイスをしつつ、彼らからは懐かしい高校の様子を聞かせてもらった。さらに今回は、大学の雰囲気を知ってもらうために、岡高の卒業生で



ある工学系研究科システム創成学専攻の青山和浩教授に専門分野について講義していただいた。高校生にとっては普段受けている講義とは全く違う世界の話であり、なかなか難しい内容だったかもしれない。お恥ずかしい話、私も専門外の内容でほんやりとしか理解が追いつかなかった。細かい内容はさておき、大学で行っていることは高校とは全く違う上に、専門内容を学ぶ学科も名前を見ただけでは何をしているか想像出来ない、という点は伝わったのではないだろうか。彼らにはしっかりと調べ悩んだ上で進路を決めて欲しいと思う。来年も多くの後輩たちが訪れ、そして先輩として迎える人が増える事を期待しつつ、自分自身も後輩達を迎えることを楽しみにしている。

首都圏段戸会新役員挨拶



ありがとうございました。よろしく頼みます。



新役員(四役)陣容

- 会長 野村親信(新任、高16回)
- 副会長 村木央明(新任、高19回)
- 事務局長 水谷鏡子(留任、高14回)
- 副事務局長 織田利彦(新任、高26回)
- 天野隆太郎(留任、高20回)
- 上田洋子(留任、高22回)
- 板谷敏正(新任、高34回)

この度、四年間に亘り首都圏段戸会の発展にご尽力いただきました永田宏前会長の後を引き継ぎ、新会長に就任いたしました。また同時に、右記の通りの新役員が選任されました。

これからは、今回選任された新役員全員が力を合わせ、また七十余名の世話人の方達の力を結集しまして、首都圏段戸会のみならずの発展を目指して参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

首都圏段戸会会長 野村 親信

平成25年度世話人

- (高2回)服部 登 会計監査
- (高3回)丹羽 鼎
- (高6回)有馬 弘政
- (高7回)是津 定利
- (高8回)杉浦 嘉久 広報担当
- 田中 厚生
- (高9回)岡田 敏夫 広報担当
- (高10回)山本 眞司
- (高11回)永田 宏
- 中根 淳
- (高12回)鶴田 文男
- 成瀬 徹
- (高13回)中 浩之 広報担当
- (高14回)磯尾 進 副会長
- 水谷 鏡子
- (高15回)神谷 国広
- 満江 信之
- (高16回)鈴木 弘恵
- 野村 親信 会長

- 横井 昭親
- (高17回)伊与田 正彦
- 佐伯 寛子
- 山田 博子
- (高18回)音部 昌宏 広報担当
- 山内 恵 会計
- (高19回)都築 正行 情報担当
- 福山 透 副会長
- 村木 央明 副事務局長 企画担当
- (高20回)天野隆太郎 企画担当
- 辻村 貴典
- (高21回)小栗 恵子 情報担当
- 山田 俊文 副事務局長 書記
- (高22回)上田 洋子
- 中村 賢治 会計
- (高23回)野々山 浩 会計監査
- (高25回)戸田 讓三
- 樋江 井和徳
- (高26回)織田 利彦 事務局長
- 山口 知子 情報担当
- (高27回)長田 光雄

- (高30回)米津 智徳
- (高31回)高原 正之
- (高33回)阿部 由美子 会員担当
- 野村 明 副事務局長 企画担当
- (高34回)板谷 敏正 井上由美子 企画担当
- (高35回)岡田 敦嗣 菅 伸介 会員担当
- (高38回)中西 和幸
- (高40回)大田 武
- (高41回)平山 健二
- (高42回)長野 麻子 広報担当
- (高43回)八田 益之 会員担当
- (高44回)松尾 直樹 情報担当
- (高45回)筒井 貴之 情報担当
- 西浦 瑞恵 情報担当
- (高46回)朝岡 大輔
- 大川 博
- 小椋 俊博
- (高47回)杉本 いづみ
- (高48回)藤井 晋也

- (高49回)青島 信吾 情報担当
- (高50回)鳥居 福代
- (高52回)今泉 貴雅 近藤 佳子
- (高53回)小野 靖王 辻内 直子
- (高57回)川口 敦子 山岡 玲子
- (高58回)石川 航己 鈴木 菜穂子
- (高59回)竹内 愛実 塚本 有香
- 内藤 茂弥
- (高60回)篠原 国智 杉浦 綾香 書記
- 吉村 圭吾
- (高61回)新見 由佳
- (高62回)大山 なつみ
- 粟津 文香
- (高64回)細井 美裕

《サークル活動》に関するお問い合わせ 皆さまの参加をお待ちしております!

- “段戸囲碁会” (代表: 藤田 訓弘 高13回) kfujita@muc.biglobe.ne.jp
- “段戸華教室” (代表: 西浦 瑞恵 高45回) usagi-m@msg.biglobe.ne.jp
- “段戸音楽会” (代表: 山田 博子 高17回) marcialegow2w-danon3@memoad.jp

- “段戸句会” (代表: 小森 蓓子 高13回) shigeko_komori@ybb.ne.jp
- “段戸「山の会」” (代表: 板谷 敏正 高34回) itaya@propertydbk.com
- “段戸ゴルフ会” (代表: 木村 富司雄 高10回) BYR10566@nifty.ne.jp

「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高校の首都圏同窓会です。公式ホームページ <http://homepage3.nifty.com/dandokai/>

首都圏段戸会

検索

第40回(H24年) 首都圏段戸会総会出席者

岡高OBの恩師は各年次に合わせています。

(教頭)	村上慎一					(高28回)	小林 譲	酒井邦彦
(恩師)	金谷 鎬二	岡田保則	(高14回)	天野 彰	磯尾 進		長坂光司	藤井 哲
(高28回)	青山敦夫	石川耕春		太田眞澄	大館眞弓	(高30回)	石川定雄	岡本和也
	今井敏夫	太田 久		糸田輝義	笹瀬 修		木村美穂子	米津智徳
	服部 登			中島綾子	古澤武雄	(高31回)	小林 淳	
(高29回)	宇津野隼千	加藤正義		水谷鏡子		(高33回)	青木良子	阿部由美子
	籙木道子	木村 博	(高15回)	雨宮誉夫	神谷国広		野村 明	松田かおり
	久保雅之	後藤三千代		杉崎慎一郎	満江信之	(高34回)	板谷敏正	井上由美子
	左右田健次	高井美智子		山田智男			長谷部 誠	山下 薫
	高木次男	丹羽 鼎	(高16回)	大山達雄	鈴木貞雄		吉村玲子	
	蜂須賀芳昭	平井英次		鈴木弘恵	野村親信	(高35回)	石井 敦	大見洋平
	松井淳子	柳澤玖枝		横井昭親			岡田敦嗣	金澤 傑
(高6回)	有馬弘政	長瀬けい子	(高17回)	伊与田正彦	佐伯寛子		菅 伸介	古澤昌宏
(高7回)	青山明博	市川 毅		竹嶋栄子	徳倉哲夫	(高36回)	江坂行弘	
	近藤 衛	斎藤悦子		深津泰宏	武藤隆子	(高38回)	内田 力	中西和幸
	杉山 修	是津定利		山田博子		(高40回)	岡田邦夫	
	富田昌光	永田綾子	(高18回)	伊藤博邦	音部昌宏	(高42回)	天野健太郎	小西玄一
	蜂須賀ケイ子	村上澁子		佐口正司	藤村彰夫		長野麻子	
	村田與市	森 周子		山内 恵		(高44回)	松尾直樹	松田晴光
(高8回)	安藤逸平	大矢一夫	(高19回)	石樽直美	木下武司	(高46回)	朝岡大輔	大川 博
	小野勝巳	工藤圭章		近藤陽一	坂田徳雄		小山龍介	
	近藤忠男	杉浦嘉久		都築正行	時田和芳	(高47回)	杉本いづみ	
	高橋道人	田中厚生		野口健一	福島安史	(高48回)	羽佐田泰弘	深津広孝
	外村 仁			福山 透	宮崎収兄		深津智子	藤井晋也
(高9回)	岡田敏夫	高木治子		村木央明		(高50回)	稲垣庸右	鳥居福代
(高10回)	宇佐美忠利	太田信朗	(高20回)	天野隆太郎	伊与田あさ子		永井将貴	
	木村富司雄	山川肇爾		遠藤 昇	小野行雄	(高52回)	近藤佳子	毛利佳子
	山田 敏	山本眞司		神尾由恵	木村好夫		横糸勝仁	
(高11回)	青木かゑ子	阿部泰子		関戸博高	祖父江義信	(高53回)	辻内直子	
	石林紀四郎	今井哲夫		辻村貴典	成田雅則	(高56回)	壁谷英薫	
	梅村豊子	太田栄之		深津純子	矢吹 清	(高57回)	井脇浩之	加納実久
	杉山樹三郎	永田 宏		山本良二			川口敦子	山岡玲子
	中根 淳	服部豊治	(高21回)	足立純一	渥美忠男	(高58回)	石川航己	鈴木菜穂子
	林 泰子	本多慶成		天野 茂	大水 博		鳥山順丘	松嶋みゆき
	山崎宣典			小栗恵子	徳田 登	(高59回)	太田浩行	竹内愛実
(高12回)	稲垣早苗	堤 三郎		兵藤幸治	丸川美雪		富川恵美	
	鶴田尚弘	鶴田文男		山田俊文		(高60回)	稲垣匡志	岩田彩奈
	成瀬 徹	吹抜洋司	(高22回)	上田洋子	斉藤光保		遠藤寛士	内藤恵子
(高13回)	新井康夫	川澄忠司		榊原 誠	杉浦一孝		西山一平	平出隆志
	小森葆子	榊原健二		鈴木龍雄	飛田ひさ子		本多健太郎	
	神道千秋	杉浦 武		藤岡寿美子	程田さとる	(高61回)	坂元亮太	鈴木亮太
	杉原 洋	鈴木功一	(高23回)	野々山 浩			辻 翔太	野島大輔
	鈴木昭二	鈴木康允	(高24回)	大島一嗣			原 綾香	松田浩佳
	田口純子	田淵雅也	(高25回)	戸田讓三	樋江井和徳	(高62回)	粟津文香	大崎友莉
	堤 幸正	中 浩之	(高26回)	大山幸信	織田利彦		大山なつみ	
	廣瀬忠行	藤田訓弘		清水敬親	山口知子	(高64回)	細井美裕	
	古井 敢	本多正之	(高27回)	池田一三	長田光雄			
	森 美鎮子	山崎美智子		岸 洋平	山崎正枝			